

令和 7 年度

大隅西小学校 運営に関する計画



大阪市立大隅西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

本校は「全ての子どもの学びを保障し、生きる力を育む～ひとりもひとりにしない学び合い～」教育目標とし、「主体的・対話的で深い学び（＝学び合い）のある授業づくり」「インクルーシブ教育の研究と推進」「働き方改革の推進～いつも子どもが中心に～」を三大方針として、子どもが自ら学ぶ教育の推進に全教職員で取り組んできた。児童は落ち着いて学習に取り組んでおり、基本的な学習習慣が身についてきている。家庭・地域は学校教育に協力的で、児童が安全に安心して登校できるよう、毎朝の登校時の見守り活動などでも多くの地域の方々が協力してくださっている。

ここ数年、児童数が少しずつ減少しており、令和 7 年度は各学年 1 学級ずつ、特別支援学級 5 学級の計 11 学級となった。そのため、今年度「チーム担任制」を設け、各学年の子どもたちを学級担任 1 人だけで指導するのではなく、低学年担当・中学年担当・高学年担当・特別支援担当の教員がそれぞれチームとなり、担任および担当教員が複数名体制で子どもたちに関わる体制を取っている。常に複数名の教員が子どもたちと関わることで、これまで以上にきめ細かい支援ができるようにしていく。特別支援担当教員も特別支援としてのチームだけでなく、各学年担当教員とも連携を密にして、子どもたちの支援にあたっている。

(1) 児童数と学級数（特別支援学級を含む）

年度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
児童数	307	294	286	257	237	233	204	200	163
学級数	16	15	15	14	12	12	12	12	11

(2) 学校選択制実施状況

年度	通学区域 内就学予 定者数 A	他校区への 転出による 減 B	他校区から の転入によ る増 C	増減 $D = B + C$	転出者の割 合 $E = B \div A$	増減の割合 $F = D \div A$
H 30	31	-2	1	-1	-6.5	-3.2
R 1	45	-2	3	1	-4.4	2.2
R 2	30	-3	3	0	-10	0
R 3	38	-8	6	-2	-21.1	-5.3
R 4	35	-14	1	-13	-40	-37.1
R 5	22	-7	10	3	-31	13
R 6	21	-7	5	-2	-33	-9
R 7	23	-9	11	-2	-39	-8

(3) 大阪市小学校学力経年調査より

令和 3 年度 4 教科合計	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
大阪市平均正答率の合計	269. 8	270. 3	338. 7	359. 0
校内平均正答率の合計	253. 7	256. 3	350. 7	348. 7
標準化得点	97. 9	98. 1	101. 4	98. 8

令和 4 年度 4 教科合計	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
大阪市平均正答率の合計	275. 9	265. 3	343. 7	349. 5
校内平均正答率の合計	281. 2	276. 9	315. 4	364. 7
標準化得点	100. 7	101. 6	98. 6	101. 9

令和 5 年度 4 教科合計	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
大阪市平均正答率の合計	255. 3	258. 4	339. 0	344. 2
校内平均正答率の合計	244. 3	289. 9	342. 1	291. 0
標準化得点	98. 6	104. 2	100. 4	93. 6

令和 6 年度 4 教科合計	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
大阪市平均正答率の合計	260. 4	259. 9	349. 2	330. 1
校内平均正答率の合計	289. 5	256. 1	331. 4	284. 4
標準化得点	103. 7	99. 5	97. 9	94. 7

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。(R 5 ; 97.45% R 6 ; 97.5%)
- ② 令和3年度と比較し、不登校児童の在籍比率を1%以下にする。(R 6 ; 0.5%)
- ③ 令和3年度と比較し、不登校児童の改善の割合を90%以上にする。(R 6 ; 100%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。(R 3 ; 71.5% R 4 ; 84.2% R 5 ; 72.3%)
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より10ポイント向上させる。

国語	3年	4年	5年	6年	算数	3年	4年	5年	6年
R 3	98.8	98.5	102.8	101.1	R 3	98.4	96.6	101.2	101.2
R 4	98.8	102.2	98.5	101.1	R 4	100.9	103.6	83.0	104.8
R 5	100.3	104.4	100.5	97.2	R 5	98.6	101.6	100.8	92.9
R 6	104.1	98.7	98.9	97.7	R 6	103.7	99.8	96.2	96.3
R 7					R 7				

- ③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

英語	
R 3	66.3
R 4	73.2
R 5	63.2
R 6	54.9

- ④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

運動	
R 3	—
R 4	74.3
R 5	85.7
R 6	83.0

【学びを支える教育環境の充実】

- ① I C T の活用に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ② デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年1回実施する。
- ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回実施する。
- ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。
- ⑥ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。
- ⑦ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95%以上にする。
(R 4 ; 70.6% R 5 ; 79.7% R 6 ; 79.5%)
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）と答える児童の割合を 80%以上にする。
(R 4 ; 88.4% R 5 ; 84.6% R 6 ; 74.0%)
- ② 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）と答える児童の割合を 90%以上にする。
(R 4 ; 91.6% R 5 ; 95.1% R 6 ; 87.0%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
(R 3 ; 32.4% R 4 ; 34.6% R 5 ; 44.4% R 6 ; 36.4%)
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74%以上にする。
(R 4 ; 73.2% R 5 ; 63.2% R 6 ; 54.9%)
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。
(R 4 ; 72.5% R 5 ; 68.7% R 6 ; 63.2%)
- ⑤ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。
(R 4 ; 82.5% R 5 ; 71.7% R 6 ; 68.1%)

学校の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における国語および算数の正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。

7割未満	3年	4年	5年	6年	
R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4 教科
R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4 教科
R 5	24.2	0.0	7.8	27.6	4 教科
R 6	5.7	23.8	29.5	37	国・算

- ② 小学校学力経年調査における国・算の正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も0.5ポイント増加させる。

2割以上	3年	4年	5年	6年	
R 3	23.4	13.6	26.7	18.4	4教科
R 4	26.1	31.3	10.3	25.0	4教科
R 5	30.3	43.5	29.4	3.4	4教科
R 6	45.7	25.3	27.2	24.0	国・算

- ③ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を85%以上にする。

(R 4 ; 84.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0%)

[学びを支える教育環境の充実]

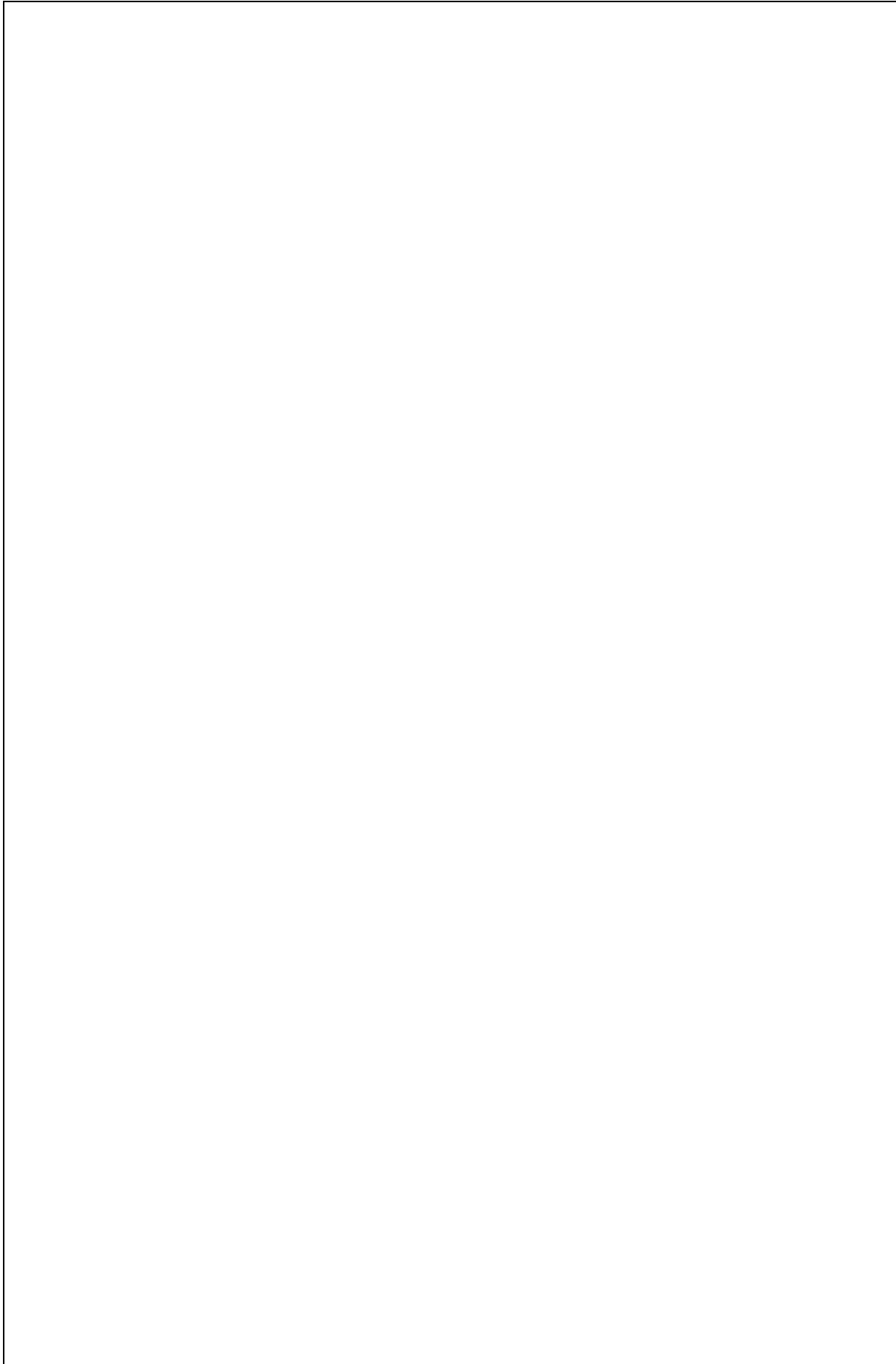
全市共通目標 (小・中学校)

- ① I C Tの活用に関する目標を設定する。
- ② デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。
- ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年に1回程度実施する。
- ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回程度実施する。
- ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ⑥ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。
- ⑦ ゆとりの日を週に1回設定・実施する。
- ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を20%以上にする。
- ⑨ 児童の8割以上が、学習者端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えるようとする。

学校の年度目標

- ① I C Tを活用した授業を週に3回以上行う。
- ② 始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う。

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立大隅西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標			達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標 (小・中学校)			
① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95%以上にする。 (R 4 ; 70.6% R 5 ; 79.7% R 6 ; 79.5%) ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。			
学校の年度目標			
① 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。 (R 4 ; 88.4% R 5 ; 84.6% R 6 ; 74.0%) ② 小学校学力経年調査および校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。 (R 4 ; 91.6% R 5 ; 95.1% R 6 ; 87.0%)			
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめや問題行動の未然防止に努め、いじめの早期発見に取り組む。			
指標			
① いじめ防止アンケートを年 3 回実施し、いじめを認知した場合はすぐに対応し解消する。 ② 月に 1 回、児童情報連絡会を実施し、全教職員で共有するとともに問題行動の未然防止およびいじめの早期発見につなげる。			
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 「きまりを守ろう週間」を実施し、きまりが何のためにあるのかや、きまりを守ることの大切さについて考え方行動できるようにする。			
指標			
① 「きまりを守ろう週間」を年に 2 回以上実施する。 ② 校内アンケートにおける「きまりを守っていますか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。			

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

登下校時の指導や児童会でのあいさつ運動を実施し、あいさつをすることの大切さについて考え、場に応じたあいさつができるように取り組む。

指標

- ① 「あいさつ運動」年に2回以上実施する。
- ② 「あいさつがんばりカード」の全校達成率を85%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立大隅西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況																																				
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】																																						
全市共通目標 (小・中学校)																																						
① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">全国学テ 6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 3</td><td>32.4</td></tr> <tr> <td>R 4</td><td>24.0</td></tr> <tr> <td>R 5</td><td>44.8</td></tr> <tr> <td>R 6</td><td>36.5</td></tr> </tbody> </table>	全国学テ 6年		R 3	32.4	R 4	24.0	R 5	44.8	R 6	36.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">経年調査 3~6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 3</td><td>32.4</td></tr> <tr> <td>R 4</td><td>34.6</td></tr> <tr> <td>R 5</td><td>44.4</td></tr> <tr> <td>R 6</td><td>36.4</td></tr> </tbody> </table>	経年調査 3~6年		R 3	32.4	R 4	34.6	R 5	44.4	R 6	36.4																	
全国学テ 6年																																						
R 3	32.4																																					
R 4	24.0																																					
R 5	44.8																																					
R 6	36.5																																					
経年調査 3~6年																																						
R 3	32.4																																					
R 4	34.6																																					
R 5	44.4																																					
R 6	36.4																																					
② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">国語</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th></tr> <tr> <td>—</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr> </thead> </table>	国語	3年	4年	5年	6年	—	×	×	×	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">算数</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th></tr> <tr> <td>—</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr> </thead> </table>	算数	3年	4年	5年	6年	—	×	×	×																			
国語		3年	4年	5年	6年																																	
	—	×	×	×																																		
算数	3年	4年	5年	6年																																		
	—	×	×	×																																		
③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74%以上にする。 (R 4 ; 73.2% R 5 ; 63.2% R 6 ; 54.9%)																																						
④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。 (R 4 ; 74.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0%)																																						
⑤ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。 (R 4 ; 82.5% R 5 ; 71.7% R 6 ; 68.1%)																																						
学校の年度目標																																						
① 小学校学力経年調査における国・算の正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">7割未満</th> <th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R 3</td><td>21.3</td><td>20.7</td><td>6.7</td><td>15.8</td><td>4 教科</td><td></td></tr> <tr> <td>R 4</td><td>17.4</td><td>10.4</td><td>10.3</td><td>4.5</td><td>4 教科</td><td></td></tr> <tr> <td>R 5</td><td>24.2</td><td>0.0</td><td>7.8</td><td>27.6</td><td>4 教科</td><td></td></tr> <tr> <td>R 6</td><td>5.7</td><td>23.8</td><td>29.5</td><td>37</td><td>国・算</td><td></td></tr> </tbody> </table>	7割未満		3年	4年	5年	6年		R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4 教科		R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4 教科		R 5	24.2	0.0	7.8	27.6	4 教科		R 6	5.7	23.8	29.5	37	国・算				
7割未満		3年	4年	5年	6年																																	
R 3	21.3	20.7	6.7	15.8	4 教科																																	
R 4	17.4	10.4	10.3	4.5	4 教科																																	
R 5	24.2	0.0	7.8	27.6	4 教科																																	
R 6	5.7	23.8	29.5	37	国・算																																	

- ② 小学校学力経年調査における国・算正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も0.5ポイント増加させる。

2割以上	3年	4年	5年	6年	
R 3	23.4	13.6	26.7	18.4	4教科
R 4	26.1	31.3	10.3	25.0	4教科
R 5	30.3	43.5	29.4	3.4	4教科
R 6	45.7	25.3	27.2	24.0	国・算

- ③ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を85%以上にする。
(R 4 ; 74.3% R 5 ; 85.7% R 6 ; 83.0%)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 • 教員の授業力向上をめざし、校内研修（メンター研修を含む）を企画し、計画的に実施する。 • 公開授業を年に2回以上実施し「主体的・対話的で深い学び」を推進する。	
指標 小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。(R 6 ; 72.3%)	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 • 体力・運動能力向上の取組を推進する。 • 「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで、児童の学習意欲を高められるようにする。	
指標 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。(R 6 ; 83%)	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康教育・食育を推進し、望ましい食生活や健康的な生活習慣を心がけられるようになる。	
指標 ① 「手洗いがんばり週間」を実施し、「達成できた」とする児童の前期と後期の年2回分総合平均を92%以上にする。 ② 栄養指導を年2回実施し、毎日の給食において、児童自らが食べられる量を調整できるよう促し、完食できるようにする。年2回アンケートを実施し、完食についての意識の向上を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

大阪市立大隅西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>① I C T の活用に関する目標を設定する。 ② デジタル教材を活用した学習を週 1 回実施する。 ③ 学習者用端末を活用した家庭学習を年に 1 回程度実施する。 ④ 協働学習支援ツールを用いた学習を学期に 1 回程度実施する。 ⑤ 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。 ⑥ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 20% 以上にする。 ⑦ ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。 ⑧ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 20 % 以上にする。 ⑨ 児童の 8 割以上が、学習者端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えるようにする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① I C T を活用した授業を週に 3 回以上行う。 ② 始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器を効果的に活用した教育活動の実践に取り組む。 ・ デジタル教材や一人一台学習者用端末を用いた取り組みを週に 3 回以上実施する。 	
<p>指標</p> <p>① 校内アンケートにおける「学習者用端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85% 以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の働き方改革を進め、労働環境を改善し、より効果的な働き方をめざす。 ・ ゆとりの日を週に 1 回設定し、時間外勤務時間を削減する。 	
<p>指標</p> <p>① 年次有給休暇を年間 10 日以上取得する教職員の割合を 85% 以上にする。 ② 「ゆとりの日」を週に 1 回設定し、17 時 30 分までに退勤する教職員の割合を 85% 以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点